

東京大学医学部健康総合科学科家族看護学教室

Department of Family Nursing, School of Integrated Health Sciences,
Faculty of Medicine, The University of Tokyo



家族看護学 Family Nursing

家族そのものを看護の対象と考える看護学の中でも新しい領域です。平成4年度、**日本初の家族看護学講座**が東京大学に創設されました。本講座は我が国の家族看護学の発展に創設期より寄与してきました。

『僕はこの教室から、世界へ羽ばたく勇気をもらいました』
(2006年度卒論生)



研究活動 Research

家族の Quality Of Life

患者やその家族に対して、治療そのものだけでなく精神的・社会的など様々な視点から

"生活の質 Quality of Life" (QOL)

についても考えることが大切です。家族看護学教室では、急性リンパ性白血病や脳腫瘍をもつ患児やその家族、緩和ケアを受けているがん患者の家族、臓器移植を受けた児やその家族を対象としてQOLを研究しています。これらの研究により、患者やその家族が自分らしく生活を送ることにつながっていくと考えられます。



周産期のメンタルヘルス・子育て支援

妊娠、出産、育児という一連の出来事の中では、心理的支援が重要です。こうした支援を担う専門職は、妊娠中は産科医、助産師、看護師です。そして産後1ヶ月健診頃からは、地域の保健師や児を診る小児科医に移行していきます。

これらの専門職の相互連絡・協力は不可欠であり、多職種のネットワークによる周産期メンタルヘルスケアの質の向上が、ますます望まれます。そのために全国の保健機関や医療機関の実態調査、先進的な取り組みについての研究、大学病院とのコラボレーションを行っています。出産後の育児支援ももちろん大切ですが、これからは妊娠期からの支援を展開することで、虐待予防の効果が上がるものと期待しています。



小児がんの子どもと家族

小児がんは、子どもに起こるがんの総称で、1人/1万人の割合で発生するととも稀な疾患です。現在18歳未満の子どものおよそ1,100人に1人が小児がんの治療中または治療後、学校などに通っています。その生存率は約70%で、「不治の病」とひとくくりに捉えることは適当ではなくなりました。家族看護学教室では、このような現状を捉え、小児がんの子どもと家族の“生活の質 (Quality of Life)”等、小児がんの子どもと家族を支援する方略を多角的に研究しています。

「皆さんも私たちと一緒に、様々な境遇にある人々とその家族を支えてみませんか？」

教室活動 Activity

健康総合科学科での授業

大学3年時、病態生理免疫学・家族看護学・小児看護学Ⅰ・小児看護学実習Ⅰを開講しています。大学4年時には、小児看護学Ⅱ・小児看護学実習Ⅱを開講しています。小児看護学実習Ⅰでは保育所・院内学級の実習、小児看護学実習Ⅱでは病院での実習です。

家族ケアフォーラム

家族ケアに携わるさまざまな専門職が集い、意見交換を行なう場としてこれまで病児の家族、ターミナルケア、子どもの虐待予防をテーマに開催しています。

家族看護学研究会

家族看護学における最先端の研究手法やトピックなどについて学び、研究の視野を広げたり、見直しの機会を得ることを目的としています。また外部の講師をお招きして研究関連の話題を提供していただき、活発なディスカッションを行っています。



家族ケア症例研究会

家族ケアの観点を軸にした症例研究会。毎回、看護職をはじめさまざまな職種や学生が集まり、症例の理解と家族ケア上の問題点に関して、活発なディスカッションが行なわれています。



卒業生の声 Message

吉備智史くん (2013年度卒業・看護学コース)

健康総合科学科への進学理由

もともと看護に興味があり、東京大学にも健康や看護を題材とした学問を扱う学科があると知り進学を決めました。

授業を受けて感じたこと

医師とは異なる立場から医学に貢献する人が多く存在し、またそれが求められているということを感じました。医学に携わる者として基本的なものから、最新の研究など発展的なものまで学べるというのも魅力的でした。

進学してよかったこと

進振りにおいては、その底点の低さのために不安に思うこともありましたが、今となってはその選択は間違っていなかったと自信を持って言えます。この学科でしか学べないことがたくさんあったと感じています。



池田こころさん (2012年度卒業・看護学コース)

健康総合科学科への進学理由

文科Ⅲ類に入学後、駒場での授業などを通して、実践的なことを学びたいと考えようになりました。「専門的な医学の知識を身につけたい」ということと「人の役に立つことを学びたい」という気持ちで決めました。

授業を受けて感じたこと

この学科での授業の印象は、非常に幅広く医療や社会についても学ぶことができるということです。文系出身でも心配はいらないです。

進学してよかったこと

健康や医療というのは自分自身の体や生活とも切り離せないもので、必ず役に立つ、生きる力になることを学べている充実感があり、進学してよかったと思います。



江本駿くん (2012年度卒業・健康科学コース)

健康総合科学科への進学理由

東大の中で唯一、日本や世界の医療・看護・保健について学ぶことができることに心惹かれ、本学科への進学を決めました。「健康」を守るということも医学や看護といった専門職だけでなく、様々な立場から人の健康や疾病に対するアプローチの基礎や最前線の取り組みを学ぶことができます。今までの自分の視野を大きく広げられる学科です。興味のある人は是非進学を！

家族看護学教室を選択した理由

身近であるからこそ、時にはその存在を忘れがちな「家族」。個人ではなく、家族という集団や関係性という新しい視点から見る医療、看護、保健はどのようなものだろうと興味を持ち、家族看護学教室を選びました。

